語釈 ： インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語（27）
(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後　藤　　寛

11 月 3 日（火）の大統領選は予測どおりの展開を見せた。Trump 大統領は選挙前にたびたび ‘4 more years in the White House’と言い再選に自信をみせてもいたが今回、特に新型コロナ禍に関わる問題のためやはり激戦となった。選挙当日に開票が続くなか Trump 氏は “We did win this election.”「われわれが勝った」と言ったが、一方で選挙前からの主張どおり郵便投票(mail-in ballots)を巡って選挙に不正があったとし、Trump 陣営は訴訟を起こし法廷闘争に持ち込む形にした。その後、Washington D.C.現地時間 11 月 7 日午前 11 時、メディアは Biden 氏の勝利が確実になったと伝えた。

得票数の数え方を巡っては民衆から “Stop the count!”「集計をやめろ！」と “Count every vote!”「すべての票を数えろ！」の両者が真っ向から対立する形で叫ばれた。また “Every vote counts!” というものもあったが、これは「すべての票は重要だ！」の意味で、後者の “Count every vote!” の意味に近くなる。“Count every vote!” と “Every vote counts!” を 2 項対立的、数学的な構造主義言語学(structural linguistics)でいう IC 分析（immediate constituent analysis : 直接構成素分析）風に示せば、各々次のようになる。

目下、多くの研究者がいろいろな視点から分析を試みている Trump 氏のカジュアルできわめて特徴ある貴重なメディア英語文を、本連載では特別にいくつかの語の形態音素形(morophophoneme)に注目しその原義(root sense)を追究しているのであるが、本会の *Newsletter* 用には月刊で扱っている。他に目的があり月刊用ではなく、ほぼ週刊用のペースでの原稿書きである。本会用にはしばしば時の流れに合うよう特に冒頭で内容上の調整をすることで提示し今回が(27)であるが、実は目下すでに(86)の執筆中である。

前回に建設中のメキシコとの国境の壁 wall の限定詞(determiner)としての冠詞(article)に注目したが、日本人に冠詞の使い方は常に問題となる。たとえば本連載の英文副題 A Basic Way of Reading Trump-Language では Trump の前に the は必要か不要か？この場合不要でよい。(1)では wall の冠詞を再度見る。(2)は wall と関連もする内容の tweet である。

(1) Large sections of <u>WALL</u> have already been built with much more either under construction or ready to go.　Renovation of existing <u>WALLS</u> is also a very big part of the plan to finally, after many decades, properly Secure Our Border.　<u>The Wall</u> is getting done one way or the other !　(January 31, 2019)

cf. Let’s just call them <u>WALLS</u> from now on and stop playing political games ! <u>A WALL</u> is <u>a WALL</u> !　(January 31, 2019)

▲国境の壁建設に特別に情熱的な Trump 大統領は上の 4 行の tweet の 3 分後に、突然

思い出したかのように再び cf.に提示した２行の tweet をした（文頭の語は原文では Lets とされていたがミスで、ここでは Let's としておく）。「壁(WALL)の大部分は出来上がり、目下、さらに建設中か着工準備にある。すでに出来上がっているいくつかの壁(WALLS)の改装も、何十年もたっていて、国境の安全のためしっかり考えねばらないが、ともかく壁(The Wall)は完成しつつある！」と言っている内容である。

これに対し cf.で「これからは単に WALLS と呼び、政治的なコトバの遊びはやめよう！壁は壁だ(A WALL is a WALL)！」と言っている。それぞれの wall の意味ニュアンスは微妙で、じっくり考えるとよい。

wall という語にはどこか負のイメージがあり、野党民主党はこの語に抵抗を感じ、異議を唱えてもいるようである。中国の「万里の長城」は英語で the Great Wall of China で、かつての「ベルリンの壁」は the Berlin Wall である。無冠詞（ゼロ冠詞 ϕ）の wall は未完成で具体性のない壁の感じがする。出来上がりつつある壁、または出来上がった連続としての壁なら the wall ということになる。Walls は次々と造っていく壁という感じで、「城壁」のようなニュアンスも出ようし、当面確かにそのほうがよいかもしれない。

いずれにせよ、cf. の tweet で A WALL is a WALL！と Trump 大統領が言う内容は、本連載前回(26)の(1)で見た Build a Wall & Crime will Fall！という彼の唱えたスローガンと一致し、これが達せられなければ再選されず勝利(triumph)はないと考えていたはずだろう。本連載(6)で、triumph（勝利）と trump（切り札）は同系だと言った。<u>tri</u><u>umph</u>という語には彼の姓 Trump が組み込まれてもいるが. . . 。

ともかく、またも謎掛けなら「wall（壁）と掛けて何と解く？」、「wheel（車輪）と解く」、「その心は？」→「Basic 語 **wall** も **wheel** も原義が＜回り巡ること＞で同系語である」などとなるが、本連載(23)の(2)で見たように **walk** とも同系で、壁の wall は回りを歩くことはできるものでも、国境の wall などはよじ登るものではない。

付け加えておくと、印欧祖語の語根 PIE etymon の音素形は/WEL/とされ、[w]がラテン系では[v] ([w] → [v])となったプラス α Basic 語 *volume, valley* などは同系で、さらに un-Basic 語 waltz（ワルツ）、whirl（旋回する）、wallet（財布）、revolver（回転銃）、revolution（革命）なども同系である。wallet は{wall + et (= small)}で、元は身体に巻きつけた小さな袋のことであった〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(69)参照〕。

統語法(syntax)的には第２文での …the plan <u>to</u> finally, after many decades, properly <u>Secure</u> Our Border. の部分には注目されてよい。挿入語句 after many decades をはさんでいるが、to と動詞 V の Secure の間に副詞の finally, properly が割って入る構造型で、いわゆる split infinitive（分離不定詞）である。今日、メディア英語などで頻繁に用いられる語法でもある。この場合 … the plan to Secure Our Border finally and properly. などと言うより、分離不定詞を用いたほうが音声的にもリズミカルで調子がよい。

なお、この tweet 文例も**音声を介し意味的区切れ目を見抜きつつの書き起こし(transcription)** により意味理解の程度を推し量るのによいが、そのためには聴いて心の中で復唱できる必要もある。ここでも**連続する2語ずつの共起性(co-occurrence)**を意識するとよい。**声の抑揚としてのいわゆるイントネーションは聴取上も、また書き起こしの transcription 上も特には問題とならない**ことは前回触れた。今回の大統領選でもメディア報道でマイクを通した英音を頻繁に聴くこととなったが、こういうものの transcription は実用的で注目される必要がある。プロの transcriptionist の存在は貴重である。

(2) <u>With</u> Caravans marchi<u>ng</u> through Mexico and toward our Country, Republicans must be prepared to do whatever is necessary for STRONG Border Security.

Dems do nothing.　If there is no Wall, there is no Security.　Human Trafficking, Drugs and Criminals of all dimensions ― KEEP OUT！（February 3, 2019）

▲「あいかわらず移民集団がメキシコ経由で米国に向かっている、共和党諸氏は国境安全のため十分な心構えが必要だ、民主党は何もしない、壁なしでは安全はない、人身売買、麻薬、また犯罪者などがいる、立ち入り禁止で彼らを排除だ！」という内容である。またもここで Wall（壁）の必要性が訴えられている。

すでにこれまでたびたび重要性を示唆してきたが、冒頭の下線部で with を振り出しとする付帯状況描写がなされている。ここでは with … -ing である。

太線とした dimensions は「いくつもの角度からの見方」ということであるが、この語が Basic 語の **mind, memory, measure, music, amusement,** etc.と同系であると察知できれば、かなりの音感と語感を獲得したと言える。プラスαBasic 語では *mathematics*（数学）、 *geometry*（幾何学）、*museum*（博物館）などとも同系である。本連載(20)の(2)ですでに扱っておいたので確認となるが、印欧祖語の PIE etymon の形態言素（音素）形 /ME/ (MENS/, /MON/)に由来し、原義は「思いをはせること」である〔詳細は同上拙著、第二部、例(28)参照〕。この tweet 文も３つの深層意味素(deep sememes)としての **ABOUT, BECAUSE, PLEASE** で分析的に理解しておくとよい。

(3) Tremendous numbers of people are coming up through Mexico in the hopes of flooding our Southern Border.　We have sent additional military.　We will build a Human Wall if necessary.　If we had a real Wall, this could be a non-event！（February 5, 2019）

cf. @EdKrassen　People are not “water”.　They don’t flood our country.　They seek refuge and asylum in our country.　（February 5, 2019）

▲これもメキシコ国境に関する tweet である。「大変な数の移民が南の国境になだれ込んでいるので軍を派遣した、必要なら人間の壁をつくる、本物の壁さえあれば何のことはないのだ！」という内容である。cf. は、この Trump 大統領の tweet に対し１分後に真っ先にジャーナリストらしき人@EdKrassen が返信した tweet であった。

太線語 flooding の *flood*（洪水）はプラスαBasic 語である。本連載(5)の②と(8)の①ですでに見たのであるが、初頭子音[pl]がゲルマン系では[fl] ([pl] → [fl]) となり多くの英語が生まれた。Basic 語 **flight, fly**（ハエ）、プラスαBasic 語 *flow, influenza*、un-Basic 語 fluent, float, flee, influence, etc.が同系である〔これらの語のうち一部は本連載(21)の冒頭でも引き合いに出した〕。PIE etymon の音素形は/PLEU/とされ、「流れること」の原義をもつ。[pl]の名残りは pluvial（多雨の）などに見られるが、多くは[fl]となって英語となっている〔同上拙著、第二部、例(145)参照〕。

flood はこの場合「押し寄せる、殺到する」の意味であるが、この語は「流れること」であってもやはり「多量の水の流れ、洪水」の意味が元であったと考えられる。それを実証するかのように、返信者(retweeter)の@EdKrassen は People are not “water”. They don’t flood our country.（人間は「水」ではない、彼らはわが国を flood するのではない）と言っている。これはやはりネイティブのもつ flood の語感から出た言い方であろう。

下線の a Human Wall は軍隊(military)、a real Wall は建設される壁のことで、ここでは２種の壁。それに対して cf.では They seek refuge and asylum in our country.（彼ら移民集団は米国に非難するのであり、避難所を求めているのだ）と言っている。

ところで壁(wall)といえば、英語に the handwriting on the wall という常識的に知ら

れる言い方がある。旧約聖書「ダニエル書(Daniel)」第５章の有名な記述から来ている。紀元前 587 年に神殿を破壊しエルサレムを陥落させた Babylonia（バビロニア）の王 Nebuchadnezzar〔ネブカドネザル（二世)〕の息子でバビロニア最後の王で独裁者であった Belshazzar（ベルシャザル）がある日、宮殿で王家の者と大臣をはじめ 1,000 人にのぼる人数でエルサレム神殿から取ってきた金銀の杯を用い豪華な祝宴を催していた。

宮殿での祝宴の真っただ中で突然、部屋の壁に人間の手が映り、*Mene, Mene, Tekel, Peres* と書かれた謎めいた書き物(the handwriting on the wall)が現れたのを彼らは見た。王は占い師らに聞いたがだれも意味は理解できず王は悩んだ。そこで預言者で宮殿に仕えていた Daniel（ダニエル）を呼び、その意味を聞いた。Daniel はこれが「不吉な前兆」であり、*Mene* が数(number)、*Tekel* が量・重量(weight)、*Peres* が分配(distributions)の意味で、全体が「王国が存続する日数は少なく、王の能力は量られ、王国は分断される運命にある」という意味になると教えたのである。

そして事実、その夜に Belshazzar 王は殺され、領土はメディア人とペルシャ人の手に渡る新たな歴史の１頁となった。このあたりの記述を Basic 聖書の旧約「ダニエル書」第５章から引用する（kingdom*, God*はプラスαBasic 語、*印付けは筆者)。

> And this is the writing which was recorded, *mene, tekel, peres*. This is the sense of the words：*Mene*；your kingdom* has been numbered by God* and ended. *Tekel*；you have been put in the scales and seen to be under weight. *Peres*；your kingdom* has been cut up and given to the Medes and Persians. ― Daniel 5：25-28 (From *The Bible in Basic English*)

なお、この Basic 聖書では *mene, tekel, peres* に関し脚注があり、それぞれ数量の単位としての英語で *a mina, a shekel, a half-mina* とされている。

英語で You will see the handwriting on the wall.（あなたは不吉な前兆を意味する壁の文字を見るだろう）は、スペイン語なら Verás la escritura a mano en la pared. となるが、メキシコとの国境の壁にこの英語文やスペイン語文が書かれたら、人はどう反応するだろうか？などとしばしば筆者は思う。今日、アメリカの特に西部や南部では日常的にスペイン語が聞こえる状況はまるで普通のこととなっているが、建設中のメキシコ国境の壁も紀元前にバビロニアにあった the Tower of Babel（バベルの塔）か？